

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	縄文から続く八ヶ岳山麓の自然の恵みと共生する村づくり!
事業主体 (連絡先)	原 村 (生涯学習課 文化財係 0266-79-7930)
事業区分	八ヶ岳・霧ヶ峰の自然の恵みが活かされる地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	994,248円 (うち支援金: 781,000円)

事業内容

自然豊かな八ヶ岳山麓に展開する縄文遺跡、阿久遺跡をはじめとする文化財の活用を促進し、地域住民が主体的に取り組めるよう、様々な事業を行った。

- ・文化財活用サポーターの募集及び立ち上げ  
「フーちゃんビレッジ倶楽部」として発足した。
- ・阿久遺跡(阿久の森)内での「縄文の深呼吸」と題するイベント実施。 2023.10.22 350名
- ・縄文わくわくバスハイク 日本遺産加盟山梨県内の博物館3館を巡った。 2023.12.9 27名
- ・謎解きヒストリーツアー 阿久遺跡内に隠れた6か所の謎を解きながら散策し、景品交換所に回答用紙を持っていくとライト付きボールペンとメモ用紙がもらえる企画。 参加者300名
- ・顔出しパネル作成 1基 原村の星空と八ヶ岳をバックに縄文人の生活を配した。
- ・フーちゃん貫頭衣作成 1着 貫頭衣を着ることでフーちゃんも縄文人になった。



【遺跡活用プロジェクト「縄文の深呼吸」阿久の舞 披露】

事業効果

- ①日本遺産構成文化財や地域の文化財のPRが効果的にでき、世代を超えた多くの方々のコミュニティの場が設けられ、地域の文化財に親しみを持つ縄文ファンが増えた。
- ②遺跡周辺のごみ拾い等で2050ゼロカーボンの周知や意識拡大ができた。
- ③謎解きヒストリーツアーは阿久遺跡内で行うことにより初めて遺跡に来たと言う方もいた。また、夏休みには子供もたくさん参加し楽しめた。
- ④顔出しパネルは色々な場面で有効に使えることにより、今後一層のPRに期待できる。

【目標・ねらい】

- ①日本遺産構成文化財のさらなるPR
- ②文化財活用サポーターの増員及び立ち上げ
- ③住民参加型の事業の拡大や周知
- ④世代を超え村の文化財を通じ、地域への愛

今後の取り組み

自然豊かな八ヶ岳の麓に展開する縄文文化や村の文化財を使った事業を展開し、村への移住促進や観光に文化財を使いたい。また、文化財サポーターの活動をサポートし、有意義な活動ができるようにアドバイスしていく。小中学生との連携を図るほか、顔出しパネルや令和4年度に作成した「フーちゃん着ぐるみ」と共に、保育園児等若年層に楽しく村の文化財を広めていく。

※自己評価 【 A 】

【理由】

- ・遺跡活用プロジェクト「縄文の深呼吸」は森の中で行う良さが、定着した縄文ファン層の増加につなげることができた。
- ・サポーターの設立は今後の文化財の面白みやPRにつながるが大いに期待できるものとなった。
- ・世代を超えたコミュニティの場を設けることができ、村への愛着心につながった。
- ・謎解きヒストリーツアーや顔出しパネルは子供でも気軽に参加したり使うことができたため、若年層が興味をもつ手段として有効であった。